

Cisco ONS 15600 の IP アドレスの検出

目次

[概要](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[表記法](#)

[IP アドレスの特定](#)

[関連情報](#)

概要

Cisco ONS 15600 ノードには、シャーシ上での IP アドレスは表示されません。このドキュメントでは、ONS 15600 の IP アドレスを識別する方法について説明します。

前提条件

要件

このドキュメントの読者は次のトピックについて理解している必要があります。

- ONS 15600

使用するコンポーネント

このドキュメントの情報は、次のソフトウェアとハードウェアのバージョンに基づくものです。

- ONS 15600

このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されたものです。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、クリアな（デフォルト）設定で作業を開始しています。ネットワークが稼働中の場合は、コマンドが及ぼす潜在的な影響を十分に理解しておく必要があります。

表記法

ドキュメント表記の詳細は、『[シスコテクニカルティップスの表記法](#)』を参照してください。

IP アドレスの特定

この手順では、PC 端末から ONS 15600 ノードの TL1 ポートへの TL1 接続を使用します。次の

手順を実行します。

1. DB-9 ケーブル (ストレートスルー、オス対メス) を使用して、ONS 15600 の背面にあるカスタマー アクセス パネル (CAP) の DB-9 ポートへ PC を接続します。
2. TL1 接続を使用して、PC で HyperTerminal を開始します。
3. [図 1](#) に示すように、[Connect using] フィールドのドロップダウンリストから正しい COM ポートを選択します。 **図 1 : 正しい COM ポートの選択**
4. [図 2](#) に示すように、[Bits per second] を 9600 に、[Data bits] を 8 に、[Parity] を [none] に、[Stop bits] を 1 に、[Flow control] を [none] に設定します。 **図 2 : COM ポートの設定**
5. Enter キーを押します。 [図 3](#) に示すように > プロンプトが表示されます。 **図 3 : TL1 > プロンプト**
6. ACT-user:: <ユーザ ID>: <ctag>: <パスワード>; を [図 4](#) に示すように入力します。この例では、矢印 A はユーザ ID を示し、矢印 B は ctag を示し、矢印 C はパスワードを示しています。注: ctag には任意の番号を指定できます。 **図 4 : IP アドレス検出コマンド**
7. M <ctag> COMPLD (矢印 D) が表示されたら、ログインが完了しています。
8. Rtrv-ne-gen::: <ctag>; (矢印 E) を入力します。
9. M <ctag> COMPLD とその後に IPADDR、IPMASK、DEFRTR、NAME、SWVER、および LOAD の値 (矢印 F) が表示されます。

関連情報

- [テクニカルサポート - Cisco Systems](#)